

平成 24 年 12 月 10 日
SCOAP³タスクフォース事務局

SCOAP³の進捗状況について

1. 全体の進捗

2012 年 7 月に、対象誌（12 タイトル）を発表した。また、並行して、SCOAP³ Technical Working Group（以下、TWG とする）にて、拠出額算定のためのツールについて検討を開始した。

2012 年 9 月には、SCOAP³運営委員会、TWG 等が開かれ、各国の事情についての情報交換や出版社との協議が行われた（日本からは後述 SCOAP³タスクフォースのメンバーらが参加）。

2012 年 10 月には、SCOAP³ Launch Meeting が開かれ、EoI 提出国の代表が参集し、National Contact Point（国毎の窓口）の設定等について協議した。

2012 年 11 月には、参加機関と出版社の間の拠出・削減額の調整作業であるリコンシリエーションの準備が開始された。

今後、2013 年 3 月までにリコンシリエーションを行い、拠出額を確定させた後に、2013 年第 2 四半期中に CERN と参加機関との間で MOU を締結する予定となっている。その後、参加機関は CERN からのインボイスに従って費用を拠出し、2014 年 1 月から対象誌の OA 提供が開始されることになる。

2. 日本の対応

2012 年 8 月に、連携・協力推進会議の下に SCOAP³タスクフォース（主査：東京大学附属図書館 木下情報管理課長，事務局：NII）を設置し、以下の活動を行っている。

- ①国内向け試算ツールの準備
- ②国内主要 11 大学での拠出額試算
- ③TWG 参加
- ④対象誌購読状況調査（10-11 月）
- ⑤参加意向調査（12 月実施中）
- ⑥参加機関拠出額計算（1-3 月予定）

今後 SCOAP³タスクフォースは、上述するように、対象誌購読機関に対して SCOAP³への参加意向を調査し、参加を表明した機関について拠出額の計算を行う予定である。

また、10 月の SCOAP³ Launch Meeting の場にて National Contact Point の設定が取り上げられ、日本は、関係者間の調整の結果、NII が務めることとなった。